

計量証明書(土壌)

調査No. 20XX-00000 受付日 20XX年 〇月 〇日 作成日 20XX年 〇月 〇日

計量証明書発行 熊本県知事登録第157号 理研計量士  
株式会社 生科研分析センター 熊本県阿蘇郡西原村鳥子312-4 0120-376-831  
熊本県阿蘇郡西原村鳥子312-4 0120-376-831

農家名 鳥子太郎	種別 水田	圃場名・地番 03 L 壤土	農協・団体名 JA	支所 211100 トマト
住所 熊本県阿蘇郡西原村鳥子312-4	圃場面積 1 水田	圃場土質 03 L 壤土	代表者 281 雨よけ栽培・付付	診断設計担当

栄養状態に関する判定表														地力由来に関する判定表						
分析項目	pH (H <sub>2</sub> O)	EC (1:5) μS/cm	アミノ酸窒素 mg/100g	硝素 mg/100g	有効態リン酸 mg/100g	交換性加里 mg/100g	交換性石灰 mg/100g	交換性苦土 mg/100g	交換性マンガン mg/kg	可溶性鉄 mg/kg	可溶性亜鉛 mg/kg	可溶性銅 mg/kg	ホウ素 mg/kg	石灰質苦土 mg/kg	苦土加里 mg/kg	分析項目	塩基置換容量 me/100g	塩基飽和度 %	腐植 g/100g	リン酸吸収係数
分析法	ガラス電極法	※1	UV分光法	UV分光法	UV分光法	UV分光法	UV分光法	UV分光法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	ICP発光分析法	※1	※1	分析法	※1	※1	燐光光度法	※1
分析値	7.6	0.20	2.2	4.6	169	80	520	153	0.5未満	2.3	0.22	3.5	1.2	2.4	4.5	分析値	26.0	107.6	6.4	480
高値																高値				
目標	6.5	0.30	1.5	3.5	60	40	300	70	20.0	100	3.5	40.0	2.5	8	6	目標	25	80	3.0	800
低値	6.0	0.10	0.3	0.7	20	15	200	35	7.0	15	1.0	30.0	0.7	5	2	低値	15.0	80	3.0	500

**診断メッセージ**

- 「壤土」は一般的な土質で、砂質が強いと砂壤土に、粘質が強いと埴土に分類されます。
- pHが7を超えています。土壌酸度低下剤の施用によりpH矯正を行ってください。
- アミノ酸窒素・硝素・リン酸・加里・石灰・苦土が豊富に見られます。元肥の窒素投入を減量してください。
- 腐植・加里が共に高い状態です。元肥の腐植・加里の施用は減量します。
- 集積した成分は施肥を減じ、土壌中の蓄積分を積極的に利用されるようお掛け下さい。
- 過剰の程度の窒素成分が見受けられるのでご注意ください。

※マンガン 供給が不足しています。  
土壌中のマンガン含有率が低く、土壌中の絶対量が不足している可能性があります。

\*マンガンが不足すると、中上葉の葉脈間に緑化し黄化が起ります。  
\*鉄が不足すると、上葉の葉脈の縁を黄化し葉脈間が緑化します。  
\*銅が不足すると、先端葉から萎れたように垂れ下がり、生育が悪くなります。  
\*また、タンパク合成に支障がおり、アブラムシ等の害虫を誘引する原因にもなります。  
\*亜鉛が不足すると、葉が全体的に緑化し黄化が起ります。開花の出が悪くなります。  
\*亜鉛は小葉化または骨化しやすく、玉伸びが悪く小玉が多くなります。

**本年度参考施肥設計 (成分kg/10a)**

施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥	6.4	4.8	3.0
合計	6.4	4.8	3.0

上記参考施肥設計の基となる施肥量

施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥	8.0	24.0	15.0
合計	8.0	24.0	15.0

**肥料及び土づくり資材名**

肥料名	包種・数量	10a当り
土壌団粒促進剤	[ 10kg× 4袋 ]	40 kg
総合微量要素剤	[ 10kg× 4袋 ]	40 kg
土壌酸度低下剤	[ 10kg×10袋 ]	100 kg
根の活力剤	[ 15kg× 4袋 ]	60 kg
腐植酸資材	[ 20kg×10袋 ]	200 kg

お客様相談窓口 0120-376-831  
平日 午前9時～午後5時 (土日祝日・休業日を除く)  
生科研・土づくり・商品のお問い合わせにご利用ください。  
Eメール: [info@n-seikaken.co.jp](mailto:info@n-seikaken.co.jp)  
URL <http://www.n-seikaken.co.jp>

＜ 各項目の解説 ＞

- 分析法・分析値**  
分析法を表示しています。  
分析値が過剰(高い)又は欠乏(低い)している場合は赤字で表示しています。
- 各成分の栄養状態・バランス**  
化学性由来(左側)：中央部の緑色の●が多いほうが土壌バランスが良く、赤色の●があれば改善が必要です。  
地力由来(右側)：土壌特有の性質を目安値に対し青色の●として高低を示しています。
- 多量要素の測定値(mg/100g)**  
窒素・リン酸・加里・石灰・苦土が土壌中にどれだけ残っているかを表示しています。  
数値にkgをつければ10aあたりの量となります。例)加里 80mg/100g→10aに80kgの加里が含まれています。
- 微量元素の測定値(mg/kg)**  
ごく微量でも重要な働きをする微量元素が土壌中にどれだけ含まれているかを表示しています。  
1mg/kgは10aあたり100gの量となります。例)亜鉛 3.5mg/kg→10aに350gの亜鉛が含まれています。
- 加里・石灰・苦土の塩基バランス**  
塩基バランスが標準より外れてくると、一方の成分が他方の成分の吸収を抑制します。  
塩基バランスが崩れると、土壌中に十分に含有していても欠乏症状が発生することがあります。
- 地力を示す項目**  
塩基置換容量 土壌が塩基(加里・石灰・苦土)をどれだけ保持できるかを表示しています。  
(CEC) 保肥力が高いか低いかを示します。  
塩基飽和度 塩基置換容量に対して塩基がどれだけ吸着保持されているかを%で表示しています。  
100%を超えると緩衝能がなくなり、根やけなどが発生しやすくなります。  
腐植 有機物が分解されてこれ以上分解されなくなったものを腐植といいます。  
腐植は土壌の団粒構造維持や保肥力の向上などの地力維持に必要です。
- リン酸を吸収固定する力**  
高いとリン酸の固定力が強いので、施用したリン酸が作物に吸収されにくくなります。  
低いとリン酸が集積しやすく、過剰のリン酸が鉄や亜鉛を不溶化するなどの問題が発生しやすくなります。
- 分析結果に対する説明および欠乏・過剰事例などを解説しています。**
- 都道府県又はJAなどの当地の施肥基準**
- 分析結果に基づいた、適切な施肥量(窒素・リン酸・加里)**
- 分析結果に基づいた、必要な肥料(窒素・リン酸・加里以外)や土壌改良剤の種類・施用量・施用袋数**